

2005年 社長(渡 文明)年頭挨拶について

記者各位

新年明けましておめでとうございます。1月5日(水)、当社社長、渡 文明は本社にて下記の通り年頭挨拶を行いましたのでお知らせいたします。

<要旨>

1. 昨年を振り返って

日本経済は一時的な調整局面もあったが、現在は回復基調を継続している。その中で、石油業界は、歴史的な原油価格の高騰によりコストは上昇したが、概ねコストに見合った価格が形成され、その結果当社を含め各社とも好調な決算となる見通しである。しかし中長期的には、石油需要の減少、エネルギーのポータレス化、環境問題への対応など、依然として石油業界には課題が山積みしており、予断を許す状況ではない。

2. 第2次中期経営計画について

当社は連結中期経営計画のもと、企業基盤の強化を図るとともに、真の総合エネルギー企業体制の構築に向けた様々な施策を展開してきている。現在推進中の第2次中期経営計画では、2004年度が最終年度であり、その目標完達に向け、ラストパートをかけている。この結果、本年度業績は連結・単体ともに、財務目標の達成はほぼ確実なものとなった。

3. 第3次中期経営計画について

2005年度からの3カ年を目標とした第3次中期経営計画については、「確固たる収益力の確立」と「社会的信頼の確立」を最重要課題と位置付け、今年3月の発表に向けて準備を進めている。

「確固たる収益力の確立」・・・コアビジネスの強化によるキャッシュフローの創出と、当社基本戦略の実現に向けたビジネスモデルの構築により収益基盤の強化を図る。

「社会的信頼の確立」・・・昨今、企業の社会的責任が経営の大事なテーマとなっているが、法令の順守、環境との調和、顧客が満足する品質の確立、そして人間尊重を一体にとらえ、マネジメントの視点でチェックをし、社会と企業の持続的な相乗発展を成し遂げる。

4. 最後に

我々は、これから打ち出す戦略を、新日本石油グループの総力を結集して着実かつスピードをあげて実践していくことで、独自力を確立し、ダントツの企業集団になれるものと確信している。「ENEOS」ブランドに凝縮された共通の価値観のもと、全てのステークホルダーから圧倒的な支持を受けるエネルギー企業として、さらに飛躍しようではないか。

以上